



秋田県の医師不足解消に向けて

～ 秋田大学医学部医学科生へのアンケート調査より ～

先の「あきた経済」7月号では「秋田県の医師不足について」と題して、厚生労働省の医師偏在指標に基づく偏在状況や、秋田県医師会の「秋田県の医療グランドデザイン2040」から、本県の医師不足について考察した。今回はその続編として、本県の医師不足を解消するにはどんな対策が有効か、秋田大学医学部医学科の学生にアンケート調査を行い、ヒントを探ってみた。

1 はじめに

「あきた経済」7月号の「秋田県の医師不足について」では、秋田県は医師不足の状態にあることに加え、地域別にみると秋田周辺に医師が集中しており、他の地域との格差が大きいという、地域による医師偏在が生じていることが分かった。そして、この地域による偏在は今後拡大していくことが予想されている。一方で、人口減少による患者の減少が進むことで、いずれは医療ニーズが低下する（医師が過剰となる）ことも予想されている。厚生労働省ではすべての都道府県に「地域医療構想」の策定を義務付け、各都道府県では策定した構想に基づき、医師不足および医師偏在の問題に対策を講じているものの、なかなか有効な手立ては見つからない状況にある。これは秋田県も同様である。

厚生労働省や日本病院会、そして秋田県医師会など各関係機関では、現役の医師を対象に様々なアンケート調査を行い、医師不足や医師偏在問題の解消、また医師の労働条件改善に向けた対策を探っている。今回は視点を変え、これから医師となっていく「秋田県で学んでいる医学部医学科の学生」にアンケート調査を行い、秋田県の医師不足、医師偏在問題の解消につながるヒントを探ってみた。

2 アンケート調査の結果

今回は秋田大学医学部の協力を得て、医学部医学科の学生を対象にアンケート調査を行った。各学年の多くが受講している講義を選び、講義の終了後にアンケート用紙を配付し、記入後、その場で回収するという手法をとった。

なお、5・6年生は既に実習期に入っているため集まって受講する講義がないこと、また3年生については大学側の都合から対象外とした。

調 査 概 要	
回答者数	秋田大学医学部1年生 (96名)、2年生 (120名)、4年生 (78名)、計294名
調査方法	アンケート直接配付、記入後回収
調査時期	2019年6月～7月

(1) 学生の属性

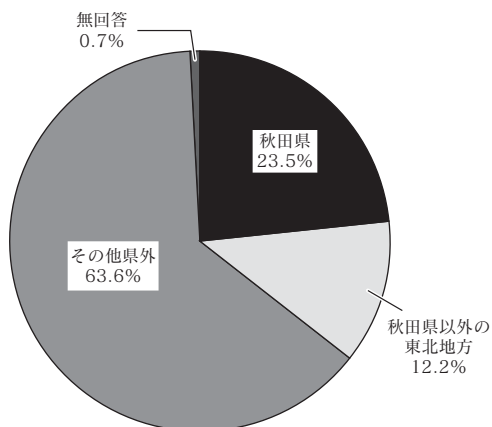
学生の出身地は、「秋田県」23.5%、「秋田県以外の東北地方」12.2%、「その他県外」が63.6%となった(図表1)。

地域枠奨学金の受給については、「あり」が24.8%、「なし」が73.8%となった(図表2)。

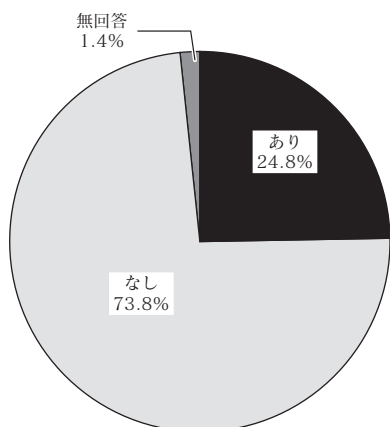
なお、「あり」の内訳は、秋田県の地域枠(※)での県内出身者が大半だが、秋田県の地域枠での他県出身者や、他県の地域奨学金で秋田大学に入学している学生、他県の医療法人からの奨学

金で秋田大学に入学している学生も含まれている。
 ※地域での医師不足を解消するため、大学が設けている推薦入試枠。奨学金を貸与し、返済までの一定期間地元で勤務するという条件を付しているケースが多い。

図表1 出身地



図表2 地域枠奨学金の受給

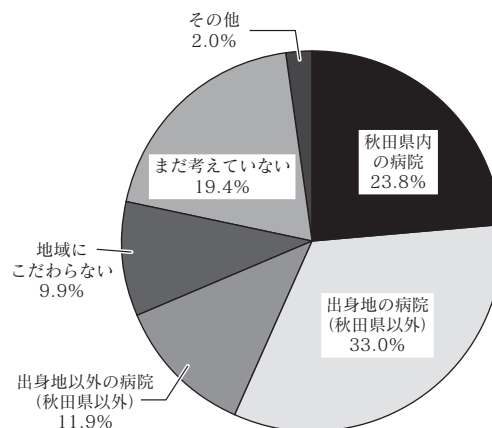


(2) 臨床研修の希望地域とその理由

医師になるには、大学の医学部医学科で6年間学び、医師国家試験に合格した後、初期臨床研修として病院で2年間勤務することが法律で義務付けられている。その後、ほとんどが後期臨床研修として3～4年間(期間は病院によって異なる)勤務し、研修終了後、認定医や専門医として働くことになる。初期臨床研修と後期臨床研修は医師側と病院側のニーズが合えば、同じ病院でも、異なる病院でも可能である。

今回は、臨床研修を初期、後期と分けず、「臨床研修はどの地域の病院を考えているか」と尋ねた(図表3)。その結果、「秋田県内の病院」が23.8%となり、秋田県出身者の割合とほぼ同じとなった。「秋田県以外出身地の病院」が33.0%、「出身地以外で秋田県以外の病院」11.9%、「地域にこだわらない」が9.9%となった。

図表3 臨床研修の希望地域



「秋田県内の病院」とした学生のうち、地域枠の学生が85.7%を占め、一般枠の学生は県内出身者5.7%、県外出身者8.6%にすぎなかった。一方、県外出身者で地元の病院を希望する学生のうち、一般枠の学生は90.7%に上っている。

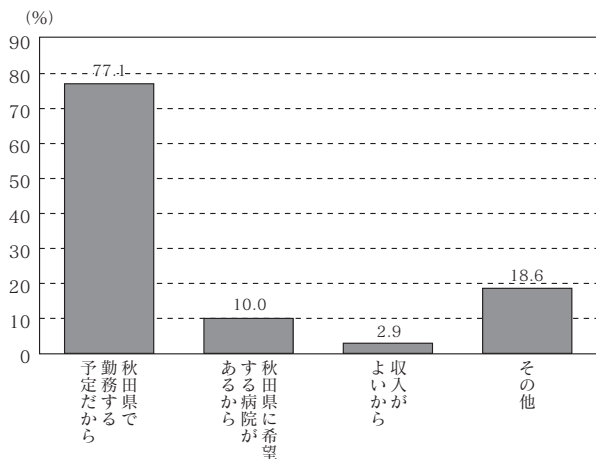
秋田県の病院を希望する理由としては、ほとんどが地域枠の学生であることから、「秋田県で勤務する予定だから」が77.1%を占めた(図表4)。

「その他」を選んだ記述欄にも「地域枠だから」とした回答が多かった。わずかではあるが、県外出身であるものの、「秋田大学に入学させてもらったから秋田に恩返しをしたい」、「自分を6年間育ててくれる秋田への恩返しのため」という理由で秋田の病院を選ぶという学生もみられた。

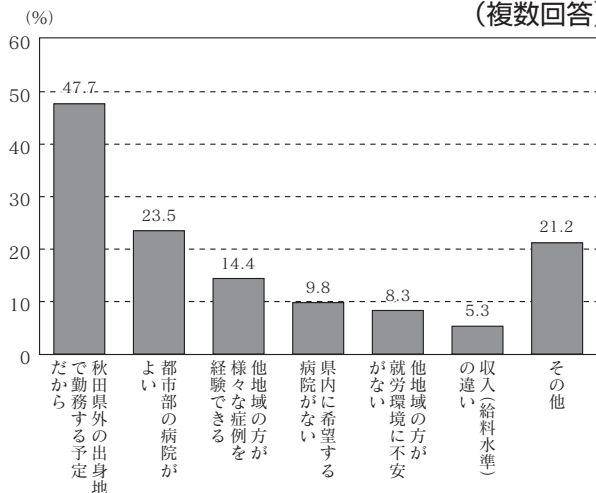
県外の病院を希望する理由としては、「出身地の病院で勤務する予定だから」が47.7%と最

も多く、次いで「都市部の病院がよい」が23.5%だった(図表5)。また、「他地域の方が様々な症例を経験できる」が14.4%、「県内に希望する病院がない」が9.8%となった。

図表4 臨床研修を秋田県でする理由(複数回答)



図表5 臨床研修を秋田県以外でする理由(複数回答)



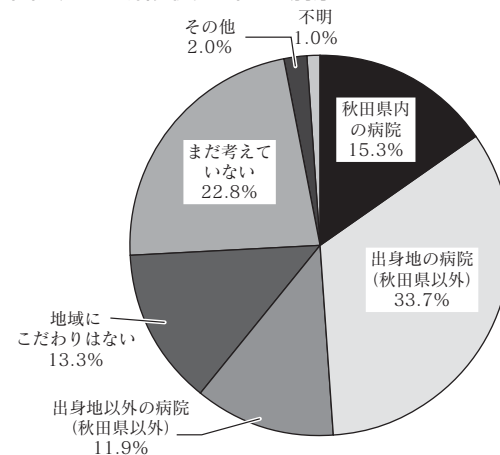
「その他」の中では、「決まっていない」、「まだ考えていない」という回答が最も多かった。これは学年が低いほど多く、4年生では「決まっていない」という回答はゼロだった。また、臨床研修の希望地域について「まだ考えていない」と回答したうち、半数以上が秋田県外で臨床研修をする理由を選択している。つまり、まだはっきりとは決めていないものの、県外の病院にしようということを漠然と考えている学生

が相当数いるという結果となった。

(3) 臨床研修後に勤務したい地域とその理由

臨床研修終了後に勤務したい地域(地域枠の学生は、地元勤務の義務期間が終了した後の勤務したい地域)は、「秋田県内の病院」が15.3%となった(図表6)。

図表6 研修後の希望勤務地



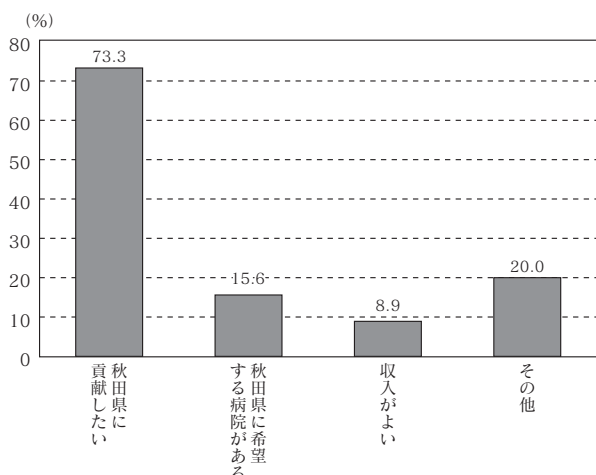
臨床研修の希望地域と比較すると、他の選択肢ではほとんど変化がなかったものの、「秋田県内の病院」とする割合だけが大きく減少している(23.8%→15.3%)。内訳をみると、県内出身地域枠の学生で「秋田県内の病院」を選択した人数が減少している。「地域にこだわらない」、「未定」とした学生もいるものの、臨床研修および県内勤務の義務期間が終了した後は、県外の病院へ行きたいと考えている学生が一定数いるということがうかがえる。

将来的な勤務地に秋田県を希望している理由としては、「秋田県に貢献したい」が73.3%と最も多かった(図表7)。次に多かった「その他」には、「都会に興味がない」、「地元が好き」などという意見がみられた。なお、県外出身者で秋田県内の病院で働きたいとする回答は、ほとんどなかった。

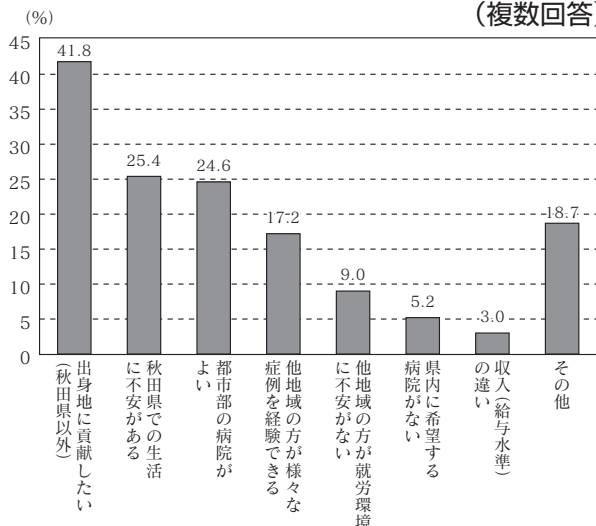
勤務地に秋田県外の病院を希望する理由とし

ては、「出身地に貢献したい（秋田県以外）」が41.8%と最も多く、「その他」の中でも「地元で働きたい」、「地元が好きだから」という意見が多かった(図表8)。次に多かったのは、臨床研修の設問にはなかった選択肢の「秋田県での生活に不安がある」という回答で、25.4%あった。

図表7 秋田県内の病院で働きたい理由(複数回答)

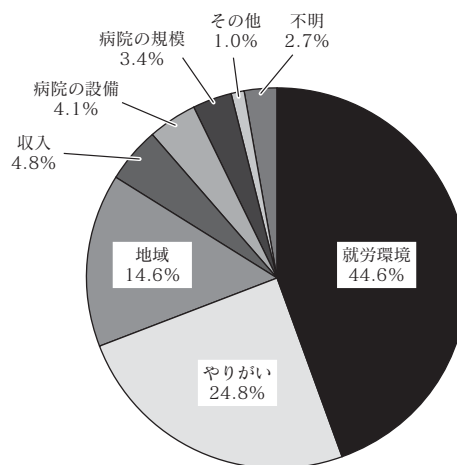


図表8 秋田県以外の病院で働きたい理由(複数回答)



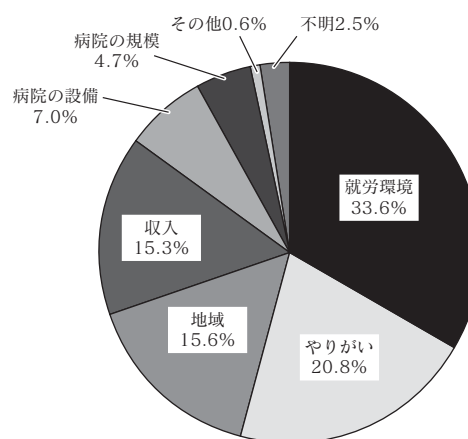
(4) 勤務する病院を決める際に重視するもの
勤務する病院を決める際に最も重視することは、1位が「就労環境」で44.6%だった(図表9)。次が「やりがい」24.8%、以下「地域」14.6%、「収入」4.8%、「病院の設備」4.1%、「病院の規模」3.4%となった。

図表9 勤務する病院を決める際に最も重視するもの



ここでの設問は、重視する項目を優先度順に3つ選んでもらうことにしたため、ポイント制にした結果を見てみると、割合は若干異なるものの、最優先とする順位と全く同じ結果となった(図表10)。「地域」や「収入」よりも、「就労環境」と「やりがい」を選ぶ割合が高くなっている。

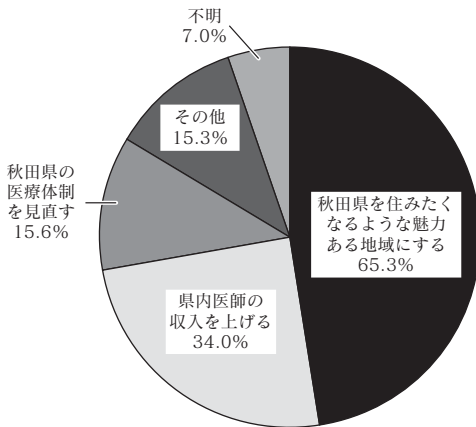
図表10 勤務する病院を決める際に重視するもの(3つ選択した項目をポイント制にして累計)



1位を3P、2位を2P、3位を1Pとしてポイントを累計

(5) 秋田県の医師不足を解消するためには
秋田県の医師不足を解消するために有効だと思うことについては、「秋田県を住みたくなるような魅力ある地域にする」が65.3%と圧倒的に多く、次に「県内医師の収入を上げる」が34.0%となった(図表11)。

図表11 秋田県の医師不足解消に有効なものは



自身が勤務する際に重視するのが「就労環境」と「やりがい」であるのに対し、秋田県の医師不足を解消するためには、「秋田を魅力ある地域にする」ことと、「県内医師の収入を上げる」ことが有効だとしており、やや異なる結果となっている。

「その他」の意見としては、「交通の便をよくする」、「人口を増やす」、「若者を増やす」等、秋田県自体への要望が多かった。

(6) 自由意見

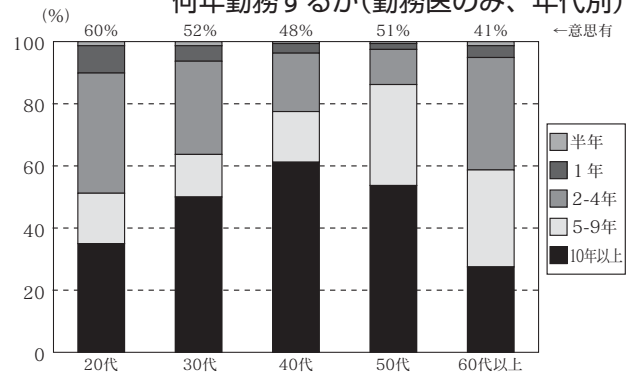
授業終了後のアンケート調査で、あまり時間がなかったこともあり、最後の自由意見欄に記載があったのは、全体の約1割の27件であった。そのうちほぼ半数が、秋田に対して、「若者が暮らしやすい街整備をすべき」、「交通手段が足りない」、「医師の待遇よりも人口が減少している理由を考えるべき」等の厳しい指摘であり、そのほとんどが県外出身者であった。県内出身者からは「学内に県内出身者は少なく、半数以上が関東圏の出身だと感じる。そのほとんどが秋田を出ていく予定であり、秋田県の医師不足に大学が貢献しているとは思えない。県内高校生への枠をもっと広げるべき」、「地域枠をもっと確保すべき」、「地域枠をより魅力

あるものにするべき」など、県内出身者を増やすべきとする意見がいくつかあった。

3 厚生労働省の調査より

今回のアンケート調査とは関係ないものの、厚生労働省が平成28年に行った、全国の医師約10万人を対象とした「医師の勤務実態及び働き方の意向等に関する調査」(回答者15,677人)によると、医師全体の44%が、今後、地方(東京都23区および政令指定都市、県庁所在地等の都市部以外)で勤務する意思があると答えている。さらに、勤務医に限定すると、20代の60%を筆頭に、各年代とも40%以上の医師が地方で勤務する意思があるとしている。また、地方での勤務希望年数は、30~50代では10年以上を希望する割合が高くなっている(図表12)。

図表12 地方勤務の意思有の割合と何年勤務するか(勤務医のみ、年代別)



資料：厚生労働省「医師の勤務実態及び働き方の意向等に関する調査」(H28.12調査)より当研究所作成

現在、医師確保のための対策は、臨床研修医や研修終了後の医師をいかに呼び込むかということに比重が置かれているが、この統計をみる限り、秋田県出身など、秋田にゆかりのある医師を中心に、県外の勤務医に積極的にアプローチし、県内病院への勤務を促していくことも有効な手段と言えるのではないかと。県では県外就職者の秋田への就職支援として、Uターン、Iターン、Jターンの総称である「Aターン」の活

動を行っている。「医師版Aターン」のような活動を早急に開始する必要がある。

4 まとめ

(1) 今回のアンケート調査の結果をみると、県外出身者のほとんどが秋田県には残らないとしている。そのため、県内に医師を確保するには、秋田大学の県内出身者を秋田に定着させることと、県外から医師を呼び寄せることが必要となる。今年度の秋田大学医学部医学科への入学者は124名で、そのうち秋田県出身者は地域枠も含め30名となっている。厚生労働省の「臨床研修修了者アンケート調査（平成30年）」によると、秋田県の医学部卒業生の地元出身割合は29.5%で、47都道府県のうち29位となっている。年次の異なる対象ではあるが、どちらの調査でも3割を切る水準となっている。また県の資料によると、今春、県内出身者で、秋田大学を含めた全国の医学部医学科へ進学した人数は60名となっている。

今年2月に厚生労働省が公表した、2036年時点で必要となる医師数の推計では、秋田県は2036年までに医師の確保が進んだ場合でも204人の不足、医師の確保が進まなかった場合では646人が不足すると見込まれている。これらの数からみると、毎年県内出身の医師をかなりの割合で確保しなければならない。そのためには、まず秋田大学の入学者に県内出身者を増やすことが有効であろう。

今回のアンケート調査に協力していただいた医学部の先生からも「極論を言えば、秋田県の医師不足を解消するには、全員を地域枠にするしかない」という話があった。ただし一方で、「秋田県の医師不足は人数的なものもあるが、

質の問題もある。きちんと患者を診ることのできる医師を育てていく必要がある」という意見もあり、単純に県内出身者の枠を増やせばよいというものではなく議論が必要ではあるが、秋田大学に県内出身者の割合を増やすことは県内の医師不足解消の第一歩と言える。

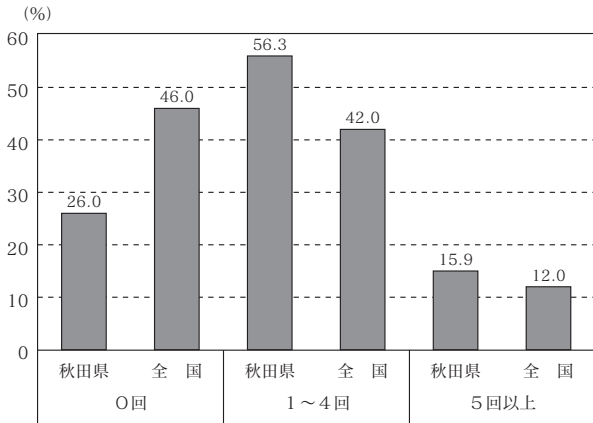
(2) アンケートで秋田県の医師不足を解消する策として最も多くあげられた、「秋田を魅力ある地域にする」は、医師不足に限った問題ではなく、県全体をあげて継続的に取り組んでいく課題である。次に多かった「県内医師の収入を上げる」は、財政面を考えると現実的には容易ではない。したがって、勤務する病院を決める際に重視するとされた「就労環境」と「やりがい」がヒントになるのではないかと。前述の厚生労働省のアンケート調査では、地方で勤務する意思がないとした医師にその理由を尋ねたところ、すべての年代で、上位3つの中に「労働環境への不安」、「希望する内容の仕事ができない」の2つが入っており、「就労環境」と「やりがい」を重視していることが分かる。

医師の労働環境については、近年「医師の働き方改革」が叫ばれるなど大きな問題となっており、報道等で取り上げられることも多いことから、学生側も重視しているものと思われる。各種統計からみると1か月当たりの当直回数は都市部より地方が多い傾向にある。調査時期や設問の選択肢が異なるものの、全国よりは秋田県の方がやや当直が多いと言える（図表13）。

一方、勤務時間は都市部より地方が短い傾向にある。これについても調査時期の違いはあるものの、秋田県の医師は、全国よりも勤務時間が短いことが見てとれる（図表14、15）。

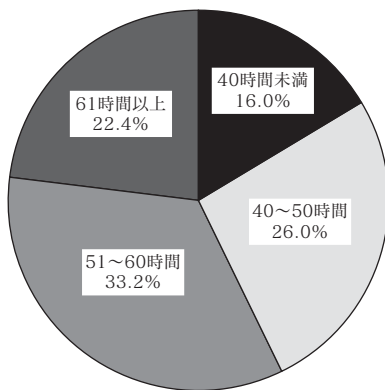
(3) 「やりがい」については、個人によって

図表13 1か月当たりの当直回数



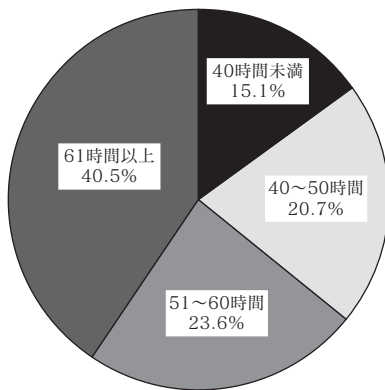
資料：厚生労働省「医師の働き方改革に関する検討会」資料（H28.12調査）
秋田県医師会「平成30年度勤務医アンケート結果」（H30.7調査）
より当研究所作成

図表14 勤務医の1週間の勤務時間(秋田県)



資料：秋田県医師会「平成30年度勤務医アンケート結果」(H30.7調査)より当研究所作成

図表15 勤務医の1週間の勤務時間(全国)



資料：厚生労働省「医師の働き方改革に関する検討会」資料（H28.12調査）
より当研究所作成

異なり、今回のアンケートでも詳細までは把握できないものの、臨床研修を秋田県以外とする理由のうち「他地域の方が様々な症例を経験できる」が14.4%、「県内に希望する病院がない」が9.8%あり、県外の病院で働きたいとする理由でも「他地域の方が様々な症例を経験できる」が17.2%、「県内に希望する病院がない」が5.2%あることから、県内の病院が研修を受けたい、働きたいと思われるような「魅力ある病院」になれば、そこで働くことが「やりがい」にもつながってくると思われる。秋田県医師会の「秋田県の医療グランドデザイン2040」で提言されている、「公・民の垣根を越えた新たな枠組みによる質の高い医療の提供」、「二次医療圏の再編による3次医療機能の配置」にあるような、県内病院の再編により、各地域に質の高い病院を作ることも検討していく必要がある。

(4) 秋田県医師会では4月に提言した「秋田県の医療グランドデザイン2040」を基に、8月から、医師、自治体関係者、住民らが意見交換する「地域医療の将来像に関する懇談会」を県内3か所で順次開催しており、県医師会や県内の病院長などをつくる「医師確保計画策定部会」も8月に初会合を開くなど、県内の医師不足、医師偏在の解消に向けた動きはこれまで以上に活発化してきている。今回のアンケートに協力いただいた秋田大学の先生の話や、「地域医療の将来像に関する懇談会」での意見を聞くと、将来の秋田県の医療に対して危機感を抱き、何とかしなければと真剣に考えている医師、医療関係者が多くいることが分かり、心強く感じた。今後さらに議論が進み、具体的な対策が打ち出され取組みが進んでいくことを期待したい。

(岩橋 彰)